

被災地のために、
映画にできること。

一人ひとりの力は
小さいけれど、
みんな集まれば奇跡が起きる。



ガレキとラジオ 2014

南三陸町に生まれた小さな災害ラジオ局が起こす、涙と笑いと感動の物語。

ナレーション

主題歌

役所広司 「トビラ」 MONKEY MAJIK ©binyrecords

監督：梅村太郎 塚原一成 撮影監督：久保健志 編集：田嶋直子 音楽監督：内山雄介(otoco) 作曲：内山肇

エグゼクティブプロデューサー：山国秀幸 企画プロデューサー：須賀大觀 制作プロデューサー：乾雅人 ラインプロデューサー：藤永光太郎

プロデューサー：国岡奈緒子 志賀司 勝山嘉之 Coプロデューサー：金延宏明

製作：ワンドーラボラトリー 企画・制作：博報堂／博報堂プロダクツ 制作協力：FOLCOM

後援：観光庁／宮城県／南三陸町 配給・宣伝：アルゴビクチャーズ 2014年／HD／カラー／81分 ©映画「ガレキとラジオ2014」製作委員会

www.311movie.com

感動と勇気を呼び起こす、小さな町のラジオ局の物語。

Introduction それでも、もう一度、被災地を応援したい。



2011年3月11日、日本の東北地方を襲った東日本大震災。

宮城県・南三陸町も津波で大きな被害を受けました。

それから2ヵ月後—被災地となった町に、自らも被災者である地元の人々が、地元の人々のために防災や避難情報を届ける一年間限定の災害ラジオ局「FMみなさん」が誕生します。自分たちも被災者だからこそ、ラジオを通じて一人でも多くの人に笑顔を届けたい。

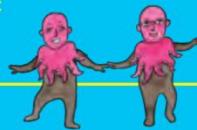
その思いがスタッフたちを支えていました。

この映画は「FMみなさん」のスタッフとリスナー、彼らが生きる南三陸町の一年間を追っています。監督はCMのクリエイティブディレクターとして活躍する梅村太郎と、TV番組の構成作家である塚原一成。学生時代からの友人でもある二人は震災直後、「とにかく自分の目で現実を見て出来る限りのことをしなければ！」との一心で東京から現地へ向かい、撮影を決意。

本業の傍らで一年間かけて本作を完成させました。

その主旨に賛同し、スペシャルサポートとしてナレーターをつとめたのは、『蝶の記』『渴き。』などの映画で世界にも知られる俳優の役所広司。そして同じく被災地である宮城県・仙台を拠点に活動する人気ロックバンドMONKEY MAJIKが主題歌を提供し、応援してくれました。また、映画の冒

頭で避難を呼びかける防災無線の声には、南三陸町の町職員として自らの命と引き換えに町民を救った遠藤末希さんの肉声が使われています。



こうして作り手と出演者がそれぞれの立場から震災後を生きながら完成させた映画は、劇場公開終了後も、震災の風化防止や被災地域の応援を目的として、上映会という形で全国を回ってきました。しかし2014年3月、この映画について発表された報道を受けて、本作は上映の中止という苦渋の選択に踏み切れます。

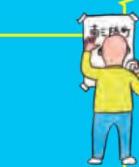
ですがその後、出演者や南三陸町の皆さん、上映会主催者や映画を観てくださった方々による上映再開を望む声に支えられ、『ガレキとラジオ2014』として再出発することになりました。再出発にあたっては、被災地の現状および継続した支援の必要性をあらためてお伝えできるよう、震災から3年後となる直近の出演者インタビューを追加しています。

かけがえのない人や思い出を失った痛みを抱えながら、それでも生まれ育った土地に根を生やして泣き、笑い、力強く生きる人々の記録と再生のプロセスは、今この瞬間も歩みを続けています。一度は中止を余儀なくされた上映が、ふたたび新たな一步を踏み出すことができたのも、その軌跡の一部となるでしょう。それは私たち自身の物語であるとともに、明日への勇気と希望を与えてくれるものです。

Story 家はない、経験もない。でも明日はある…はず！

東日本大震災から約2ヶ月、60%以上の世帯が罹災し8000名以上が避難生活を送ることになった宮城県の海沿いにある南三陸町に、災害ラジオ局「FMみなさん」は生まれました。体育館の隅でマイクに向かうのは、元・サラリーマンでリーダーの工藤さん、元・ダンプ運転手でシングルファーザーの和泉さんをはじめ町内で暮らす男女9人。時給840円のれっきとした“お仕事”です。でもラジオ経験者はゼロ！ 生放送中に大事なコメントが流れなったり、和泉さんに至っては反抗期の息子さんから「向いていない」と言い渡されてしまう始末……。とはいえたヨクヨクしてもしょーがない。クリスマスにはモミの木の点灯式で町に光をともし、仮設だけど商店街も復活。慣れ親しんだ地元で暮らし続けるリスナーとともに、オンエアは日々続きます。年が明けて2012年。「FMみなさん」メンバーは、この町のために、もっともっと何か出来ないかと考えます。被災地だからこそ、この町にはもっと笑顔が必要。そしてその思いはある奇跡を生む——。

かけがえのない人や思い出との別れは誰にもいつかおとずれるもの。その痛みを抱えながら、それでも生まれ育った土地で迷い、泣き、笑うラジオクルーとリスナーの人生は、明日に向かって歩き続ける、私たち自身の物語でもあるのです。



監督：梅村太郎 塚原一成 撮影監督：久保健志 編集：田島直子 音楽監督：内山雄介(otoco) 作曲：内山肇

エグゼクティブプロデューサー：山国秀幸 企画プロデューサー：須賀大觀 制作プロデューサー：乾雅人 ラインプロデューサー：藤永光太郎 Coプロデューサー：金延宏明

プロデューサー：国岡奈緒子 志賀司 勝山嘉之 製作：ワンダーラボラトリー 企画・制作：博報堂／博報堂プロダクツ 制作協力：FOLCOM 配給・宣伝：アルゴビクチャーズ

後援：観光庁／宮城県／南三陸町 2014年／HD／カラー／81分 ©映画「ガレキとラジオ2014」製作委員会 www.311movie.com

